

平成 18 年 1 月 1 日

発行

梶原九州男総合後援会
広報委員会

〒870-0023

大分市長浜町1-2-8
(甲斐ビル2階)

TEL(fax):097(537)1271

vol.30



くすお会だより

梶原九州男総合後援会『梶原九州男の政治活動を支援する会』
http://www.coara.or.jp/~kusuo/ E-mail : kusuo@fat.coara.or.jp



新春特集号

新年あけましておめでとうございませう

総合後援会会長 高村友喜



ご家族共々素晴らしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年「梶原九州男総合後援会」の諸活動にご理解とご支援、ご協力を賜り心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年は夏の猛暑、台風、福岡西部沖地震、集中豪雨など災害の多い年でした。会員の方にも被害に会われた方が居られました。お見舞い申し上げます。

又、秋から年末にかけて、目や耳

を覆いたくなるような事件が多発しました。大変な一年でした。

さて、「総合後援会」も総会の方針決定に基づき、月一回の幹事会に内容を付託しながら活動を進めて参りました。

その活動に多くの会員や、会員外の方々にご協力いただき、ありがとうございます。

特に、来年四月は統一地方選挙の年です。

梶原県議も組織の決定があれば、

今年の秋には三期目の挑戦に向けて、スタートしなければなりません。

会員をはじめ、多くの皆さまにご支援、ご協力いただき活動を強化したいと思っております。

最後に今後の活動に対するご支援をお願いし、皆さまとご家族のご多幸をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



謹賀新年

大分県議会議員 梶原九州男

新春のお慶びを申し上げます。皆様方にはご家族お揃いで希望に満ちた新年をお迎えのことと拝察いたします。

昨年も一昨年に続き災害の多い年でありました。大分県においても人身事故を含む大きな被害が発生いたしました。現地調査を致しましたが、その被害の大きさを実感すると同時に、1日も早い復旧への支援に取り組んできたところでありました。被害に合われた皆様

に改めてお見舞いを申し上げます。また、昨年9月の解散総選挙では、突然の解散にもかかわらず、多くのご支援をいただき誠にありがとうございました。お陰さまで、私の支援する民主党は全国

的に大敗する中、大分県は1議席増という結果を出す事が出来ました。改めまして厚くお礼を申し上げます。三年連続の国政選挙でしたが、民主党大分県連も2名の衆議院議員、1名の参議院議員を擁するところまでまいりました。国の二大政党化を一早く大分で達成したいと考えます。引き続きのご支援をよろしく願います。

今年、市町村合併になった大分県の、周辺部(旧町村部)の支援策を具体的に取組むときであります。県の「新長期総合計画」も出来ました。これを下に行財政改革と相まって、県民の皆さんが希望の持てる県政実現に向けて取組

みをしてまいります。新年の抱負であります。昨年「ゆとり」をテーマにあげながら実現することができませんでした。勿論、衆議院の突然の解散と言うハプニングはありましたが、心に余裕がなかったと感じております。余剰がなかった時代の中で、自分を殺伐とした時代の中で、自分を見失うことなく、奮い立たせながら活動していくには、「ゆとり」ある生活が心がけることだと思ひ、今年は何としても実践してみたいと考えます。

今年も何かとお世話になります。引き続きご指導をお願いいたしますと共に、皆様方が今年もご健勝でありますことを祈念し新年のご挨拶と致します。



平和と発展の年を希求して

博多くすお会 会長 三宮義也

新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

日ごろから「博多くすお会」に対し、ご支援をいただき誠にありがとうございます。

昨年も、大きな出来事が数多くありましたが、特に「戦後六十年」という節目の年でもありましたが、昨年八月のある日、戦後六十年に因んで、太平洋戦争末期の「九大生体解剖事件」を放映してまいりました。これは、四十五年五月から六月にかけて米飛行士八名が生体解剖されたという事件であります。

テレビを見ながら、十三歳の時のあの出来事が、戦争体験のひとつであったことに驚愕しました。

この年の五月初め頃(文献では五日朝)何人かとワラビ採りに行く途中で、突然大きな爆発音が響き、退き帰った時の出来事でした。

後に、米のB二九爆撃機に日本の戦闘機が体当たりをして、両機とも墜落、米の飛行士たちを大分へ護送されることを知り、兵士の姿を竹田駅で垣間見たものでした。

その時の兵士が事件の当事者であることを知るとともに、六十年前の竹田駅の様子を甦らせて来ました。戦後六十年、この間に培われた戦後民主主義はあらゆる分野において影響を与えてきましたが、あたらしい平和な世紀とともに、これからの世直しを探る縁ともしなければなりません。

次いで、総選挙ですが郵政民営化問題に端を発した選挙でしたが、「小泉劇場」「刺客」「造反組」などの、言葉を生み出しました。

民主党は、多面的な政策論争を中心に政権選択に挑んで来ましたが、利あらず「日本刷新」が浸透しない俚、終った感がします。

選挙時における戦略もさることながら、先見性を持った政策と、日常活動の姿を世間に映すことも肝要ではないでしょうか。

本年は、アジア外交問題や憲法論議など、国内の外において多くの課題を抱えています。痛みに限って触れておきます。

高齢者医療改革は、昨年末にその大綱が決定され、医療費の全体像が見えない内に、高齢者を中心にした患者負担を引き上げ、新たな医療保険制度を創設するようです。

高齢化とともに、医療費も増加しますが、クスリ代などの引き下げも考慮すべきでしょう。

また、介護保険料は、複雑な故に不明朗な請求も

数多く見られるようです。

保険料の不適切な支出や運用の改善こそ改革でしょう。公平、適切な運用が望まれるところです。

一方、昨年からの税額控除の見直しが行われ、すでに、税額増加の影響を受けております。

今年もまた、税額控除の変更だ、定率減税の廃止だ、住民税の改定だ、と、直接・間接の別を問わずすべてにおいて増加傾向にあるようです。

国民の負担増は、税の公正な執行と歳出削減が前提であり、国民の理解を得るため、国の施策との関係を確認すべきではないでしょうか。

改革の言葉に酔うことなく、改革の真の姿と先行きを見届けなければなりません。

今日、梶原県議会議員の活動は、常に現場主義をモットーに、地域における意見や要望の具現化に努め、その活動分野を広げているところであります。

今後とも「梶原くすお会議員」に対し、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年も、ご家族ともども健康に留意され、お元氣な毎日をご過ごされるよう祈念いたします。

明けましておめでとうございます



くすお会だより新春特集号アンケート

政治の流れは、中央集権から地方分権へと改革が求められています。国と地方の役割分担など曖昧にして、地方分権推進は課題を残したままです。しかしこれからの地方政治の役割はますます重要になってまいります。

総合後援会は、『梶原九州男と県政を語る会』を地区単位に年1回開催し、皆さんの意見・要望を聞くことを活動方針の基本にしています。政策委員会は、「アンケート調査」を実施し「会員の目から見た本音」県政のあり方のご意見を賜りました。皆さんに報告し今後の活動の糧にしてまいります。

議会に対する評価

ズバリ会員から見た広瀬知事の評価

議会が本来の役割を果たしているか、知事の説明、議員の知事への質問・質疑が県政に正しく反映されているかなど、聞いて見ました。

平松県政の24年間を含め、議会が県民とのパイプ役として、機能を果たしているか、については「香りの森博物館」の売却問題を始め、議会の評価は低くなっています。

一方、廣瀬知事に対しては、県政の課題を真摯に捉え、財政健全化、職員の意識改革に力をいれ、特にこれまでの事業を0ベースで見直す等が、高い評価となっています。反面、市町村合併に反対した町村への対応等で、評価が低い部分があります。

その他 次の様な意見が出されました

- 1 行財政改革**
 - (1) 県の出先機関の全面的な見直し。
 - (2) 公用車、専属運転手の見直し。
 - (3) 税金のムダ使いを徹底して無くす。
 - (4) 企業局の完全民営化。
- 2 交通対策**
 - (1) 交通渋滞対策として、公共交通機関の利用促進。
 - (2) 米良、大野川有料道路の無料化。
- 3 福祉対策**
 - (1) 施設入居希望者の待機ゼロの実現。
 - (2) 高齢者や身障者への負担が増加傾向にある、生活弱者いじめで無く、暮らし優先の施策を行う。
- 4 教育対策**
 - (1) 教科書（歴史）認定に透明性を確保する。
 - (2) 次世代を担う、青少年健全育成に取り組む。
- 5 農林水産、くらし安全対策**
 - (1) 災害対策に力を入れる、特に山林の荒廃防止については、所有者の責任を含め対策を講じる。
 - (2) 九重・久住・産山などの災害は、山の荒廃によるところが多い、対策を急ぐ。
- 6 総務・企画・警察**
 - (1) 情報公開に一層努める。
 - (2) 市内の放置自動車や放置自転車を一掃し整理を行う。
- 7 その他**
 - (1) 市町村合併を行わなくても、合併した市町村と同等の支援を行う。

広報誌『県政クラブ会報・くすお会だより』採点90点!

総合後援会の総会を1年の締め括りとして開催しておりますが、毎年多くの会員のご出席をいただき盛況に開催できております。総会に先立ち各界各層から講師をお招きし記念講演を行ってきました。

アンケートの回答では、総会に毎回出席している会員は95名で、その内78名の方から概ね満足という高い評価をいただきました。今年も是非ご出席をお願いいたします。

総合後援会の広報誌『くすお会だより』について、全会員が愛読しており内容についても、高い評価をいただきました。

『くすお会だより』を3ヶ月に一回発行し会員のみなさまにお届けしております。ご意見・ご感想をお気軽にお寄せください。内容の充実にも努めてまいります。

編集ごぼれ話

皆様明けましておめでとうございます。経済面では少し明るさが見えて来て希望を語る時にも力が入るようになって来ました。ただ、社会面では進む少子高齢化が日本社会に確実に変化をもたらして来ます。大分県全体ではこれから25年ほどで20%近く人口が減少して行きます。県内各地域別に見ればかなりバラツキが予想されています。統計が合併前の市町村単位で公表されていますのでそれによりますと旧大分市では1%弱の減少ですが旧佐賀関町では50%以上の減少などとなっています。ここで起きる変化はさまざまにところに影響して行きます。県などの行政組織、教育制度、民間団体、商工業などの産業、道路、河川、通信施設などのインフラ、自然環境、などありとあらゆるところに及びます。このときに舵取りを誤らないように政治が有効に機能して行くこと

が今まで以上に重要だと思います。そういう観点から、地方の声をたんねんに聞き、対話を積み上げて行く姿勢を持って、それを自らの哲学に照らして自分の判断を下せる政治家が強く必要とされています。変革期には真のリーダーが出現して来るはずで、「○○劇場」で自分の意見だけを言うのは一見リーダーらしくてもこのスタイルとは違います。民の声を聞き、そして自分の意見をまとめる本物のリーダーを待ち望みます。今年も、2030年も明るい良い社会でありますように。

文責 木下 光一



お知らせ

2月18日(土) 13時
30分より、教育会館
大ホールにて、第7
回「くすお会」総会
を開催します。
詳しくは2月初旬
発行の「くすお会」
会報31号と一緒に
ご案内致します。